

株主のみなさまへ

第48期 営業のご報告

2008年4月1日～2009年3月31日

会社紹介	2
決算ハイライト	3
社長メッセージ	4
営業活動のご報告	7
特集:海外市場の「今」	8
新製品の技術紹介	10
シマセイキ開発の軌跡	11
トピックス	12
株主優待のご紹介	14
株主の皆様からの声	15
連結財務諸表	16
会社概要	18
株式概要	19

Ever Onward

—— 限りなき前進

**チャレンジし続ける精神が、
「Ever Onward」の経営理念に結実しています。**

当社の創業は1962年。以来、常に独創的な技術開発にチャレンジし続け、数多くの「世界初」を生み出してきました。

その原点は、若きエンジニアであった現社長・島正博が、「手袋編機の全自動化」という難課題に立ち向かったことにあります。3年後、ひたむきな情熱と豊かな発想は、さまざまな試行錯誤を経て他社製品を淘汰する大ヒット製品へと実を結びました。技術にこだわり「最高機能の製品を経済的な価格で提供する」という当社の企業姿勢は、この創業当時から一貫し、今に引き継がれています。

1970年代後半、第二次オイルショック後の不況期にあって、機械技術と電子技術の融合を目指してきた当社は、高機能・低価格の「コンピュータ横編機」を発表。80年代には、デザイン面の開発を強化することで先発の海外メーカーを凌駕し、創業20年にして世界のトップランナーへと躍り出ました。国内ニット産業の空洞化が進んだ90年代には、完全無縫製型の「ホールガーメント[®]横編機」を開発。「産業革命に匹敵する」と評されるほどのインパクトを世界のニット業界にもたらしました。

そして21世紀、当社は、編機とデザインシステム、さらに蓄積したノウハウを融合させたトータルニットシステムを進化させてきました。これからは総合的な技術・サービスを提供し、衣の文化を創造するグローバル企業として、世界のユーザーのために新たなチャレンジを加速していきます。

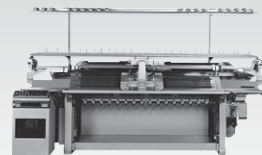


1965

全自動手袋編機



1978 ジャカードコンピュータ横編機 SNC



1995

世界初の無縫製型
コンピュータ横編機 SWG[®]



2000

All in Oneのデザインシステム
SDS[®]-ONE

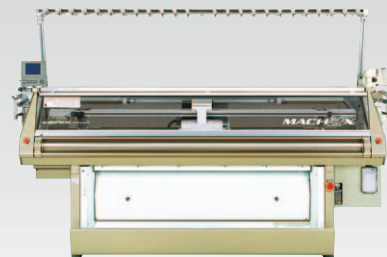


2006

コストパフォーマンスを向上させた
SSG[®]/SIG[®]シリーズ

2008

超高速ホールガーメント横編機 MACH2[®]

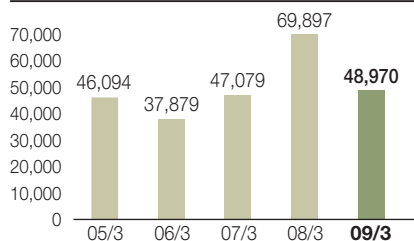


決算ハイライト(連結)

科 目		当 期 2009年3月期	前 期 2008年3月期	前期比
売上高	(百万円)	48,970	69,897	△ 29.9%
営業利益	(百万円)	8,528	16,213	△ 47.4%
経常利益	(百万円)	4,814	19,085	△ 74.8%
当期純利益	(百万円)	1,765	9,958	△ 82.3%
1株当たり当期純利益	(円)	49.88	276.13	△ 81.9%
総資産	(百万円)	119,777	133,745	△ 10.4%
純資産	(百万円)	91,063	101,647	△ 10.4%
ROE(自己資本当期純利益率)	(%)	1.9	10.6	△ 8.7pt

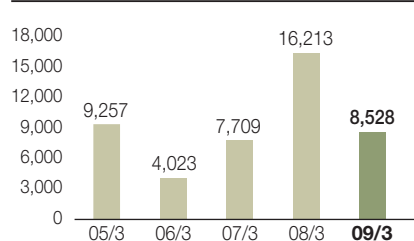
売上高

(百万円)



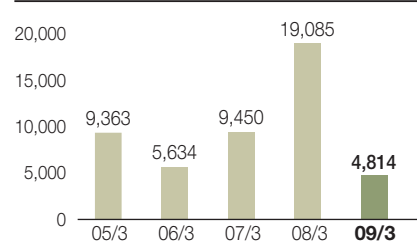
営業利益

(百万円)



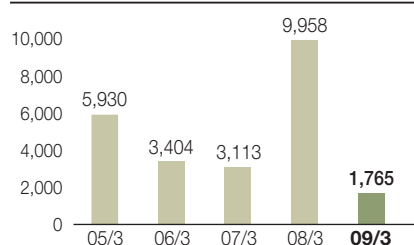
経常利益

(百万円)



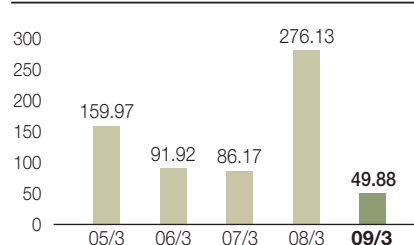
当期純利益

(百万円)



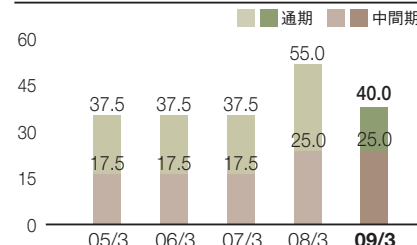
1株当たり当期純利益

(円)



1株当たり配当金

(円)



将来の見通しについて

本報告書で記載されている将来に関する予測については、現在入手可能な情報から得られた当社経営者の判断に基づいて行った予測であり、実際の業績は、さまざまな要素により、これら予測とは異なる結果となる場合があることをご承知おきください。

世界的な景気後退の影響を受け減収減益に。 次期は、いよいよ世界市場へ新機種を本格投入します。

当期（2008年4月～2009年3月）は、第2四半期から主力の中国、香港市場を中心に設備投資の見合わせが続き、過去最高の業績を達成した前期から事業環境が一転して減速しました。

当期の業績と次期の見通しについて、市場動向や当社グループの取り組みなどを交えてご報告いたします。



Q

当期の業績について説明してください。

A

米国の消費低迷を受け、主力の中国、香港のユーザーが設備投資意欲を減退させたことが業績に大きく影響しました。

前期からの受注残を抱えた第1四半期はフル稼働が続き、過去最高の日産台数を記録しました。しかし、米国の金融不安が顕在化し始めた7月から、中国、香港市場では急速に設備投資が冷え込みました。米国の消費悪化が最大の要因ですが、中国政府の金融引締め策なども影響しました。欧州市場では、中国からの生産回帰の機運が一部で高まり、イタリアを中心に設備投資は比較的堅調でしたが、全体としては世界的な消費の低迷や急激な円高の進行、価格競争の激化など厳しい状況となりました。

こうした中で当社グループは、中国・広東省に販売拠点とトレーニングセンターを設置するなど、重要市場でのサービス体制を整備しました。欧州においては、スペイン、ポルトガルに販売会社を設立して直販体制を敷くことにより、販売力を強化しました。

製品面では、期の後半にホールゲーム®横編機の新機種「MACH2®」の出荷を開始しましたが、中国、香港市場の受注環境が好転するには至らず、横編機全体では前期に比べ大幅な減少となりました。

これらの結果、当期の連結売上高は489億70百万円（前期比29.9%減）となり、利益面でも、売上高の減少による利益率の悪化、為替差損の発生などから、営業利益は85億28百万円（同47.4%減）、経常利益は48億14百万円（同74.8%減）、当期純利益は17億65百万円（同82.3%減）と大幅な減収減益となりました。

代表取締役社長

島 正博



ITMA ASIA + CITME 2008



この難局打開に向け、迅速でフレキシブルな意思決定を図るために社内組織を開発・生産・営業の三本部制に再編し、社長自らが営業本部長を兼務する体制としました。同時に、コストダウンや販売力強化など4つのプロジェクトチームを発足させ、収益力向上に向け組織横断的な取り組みを進めています。

Q 市場の状況について説明してください。

A 主力の中国、香港市場では内需拡大に対応した動きが広がり、イタリアでは生産回帰の機運が高まりつつあります。

中国、香港市場では、米国バイヤーによるニットメーカーの選別が進むなかで、品質が安定しない模倣機を製造するメーカーの多くは淘汰されつつあります。高度な技術力・高品質な編機を提供してきた当社にとってはシェアを獲得するチャンスです。また所得が向上し、富裕層が拡大する中国では、輸出中心のユーザーも内需拡大への対応を始めています。

欧州市場では、中心国・イタリアで生産回帰の兆しが見られます。色彩や造形などの感性に優れ、世界の高級品を生み出すイタリアは、最新鋭機「MACH2」の重要市場であり、付加価値の高いニット製品をクイックレスポンスで生産できることから、非常に高い評価を得ています。

国内市場では、新たなファッションの創造による活性化が急がれますが、デザインやノウハウ面で当社が貢献できる領域は大きいと考えています。(中国、欧州の市場動向はP8～9に詳細を掲載)

Q 成長戦略について説明してください。

A 世界市場への本格投入を開始するホールゲーム横編機を核に、質への転換による成長を果たしていきます。

「MACH2」の投入によって、ホールゲーム横編機は、高品位・高生産性の最上位機から、ファッション小物を得意とするミニタイプまで、フルラインアップでの提案が可能となりました。未開拓であった中国、香港市場でも、内需拡大によって普及の機が熟してきており、次期から市場に本格的に投入します。輸出中心の量の生産から質の重視へと、大きな転換期を迎えつつある中国、香港市場で、それを牽引するコア機種となるのが「MACH2」であると確信しています。

欧州市場でも、ホールゲーム横編機を中心とした営業展開を計画しています。当期は為替の変動もあり、欧州の競合メーカーとの価格競争が激化しましたが、品質の向上によって優位性を確立し、新たな成長を遂げる時期だと捉えています。

ホールゲームの浸透にあたっては、新しいビジネスモデル「オーダーメイド」も寄与すると考えます。デザインシステムとホールゲーム横編機を連動させ、短時間で簡易に、オリジナルの無縫製ニットが店頭で作れるとともに、ネットワーク上でも展開できるビジネスモデルです。2009年4月、和歌山市に「フュージョンミュージアム」を開設しましたが、ここに併設したファクトリーから「オーダーメイド」を発信しており、今後は世界市場に向けて提案していく考えです。



WHOLEGARMENT® TOKYO 2009



ジャパン・クリエーション 2009 Autumn/Winter

Q 株主への利益還元について説明してください。

A 遺憾ながら期末配当金は15円に減配し、次期の年間配当も今期と同額の40円とさせていただきます。

当期業績が期初計画を大幅に下回る結果となったことから、誠に遺憾ながら、期末配当金は1株につき当初予定の30円を15円とし、実施済みの中間配当金と併せて1株につき40円の年間配当金とさせていただきます。また減収減益となった経営責任を明確にするため、役員報酬の減額を実施する一方、2008年度の役員賞与は支給いたしませんでした。

次期の配当につきましても、事業環境が引き続き不透明なことから、中間配当金は1株につき普通配当を5円減配し20円、期末配当金は5円増配して20円とし、年間配当金は40円とさせていただきます。今後も安定配当の継続と株主価値の向上に努めてまいりますので、皆様のご理解をお願い申し上げます。

Q 次期の課題と見通しについて説明してください。

A 世界市場で厳しい経済環境が続くことから、当社グループの業績も若干の減収となる見込みです。

次期についても、米国や欧州、日本など主要先進国は軒並みマイナス成長が継続する見通しで、中国も成長率は鈍化する模様です。消費の低迷に加えて、主力市場における競争の激化や

不透明な為替動向なども懸念されます。

こうしたことから、2010年3月期の連結業績は、売上高480億円（前期比2.0%減）、営業利益55億円（同35.5%減）、経常利益50億円（同3.8%増）、当期純利益25億円（同41.6%増）を計画しています。業績見通しの前提となる為替レートは、米ドルは92円、ユーロは126円を想定しています。

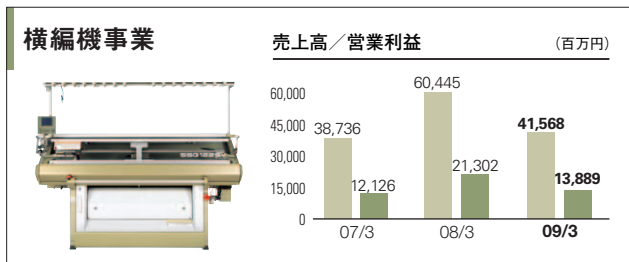
次期の最大のテーマは、成長戦略で申し上げたように、ホールガーメント横編機の販売拡大です。その一方で、主力の中国、香港市場を中心に、手動機からコンピュータ横編機SSG®/SIG®シリーズへの転換需要も依然として控えており、バランスのとれた販売戦略を推進します。

ホールガーメントの普及にあたっては、当社の蓄積するノウハウを用いて企画提案できる特長を活かし、消費者が感動を覚える新鮮なファッションの創造に取り組んでいます。例えばホールガーメントでは清涼感のある春夏物が作れますが、これが普及すれば季節性の強いニット生産は平準化し、業界はさらなる成長を果すことができます。厳しい事業環境ですが、厳しい時こそ次代を切り開くチャンスと捉えています。先行きを楽観視することはできませんが、「Ever Onward」の基本に立ち戻ることによって、現在の逆境は十分乗り越えることができ、その先に活路を見出すことができると考えています。

株主の皆様には、中長期的な視点から当社グループ事業の成果に注目いただき、一層のご支援をお願い申し上げます。

営業活動のご報告 (連結)

■ 売上高 ■ 営業利益



当社グループのコア・ビジネスである横編機事業では、国内市場、海外市場ともに世界的な消費不況という厳しい事業環境に直面し、売上高が減少しました。

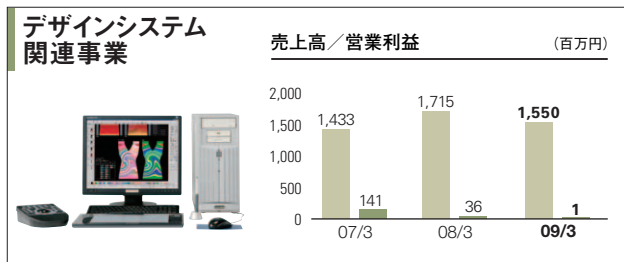
主力の中国、香港市場では、近年、人件費高騰と繊維産業における労働力不足などを背景として、手動式横編機からコンピュータ横編機への転換が拡大しています。当期も、期初においては前期の受注残があり、また需要も引き続き活発に推移したことで過去最高の生産体制を継続しました。しかし、第2四半期以降、米国消費市場の低迷を受けてニット製品の輸出が大幅に減少したことや金融引締めにより、設備投資が急速に冷え込み、さらに急激な為替変動による競合との厳しいシェア争いの影響もあり、当市場における売上高は大幅に減少しました。

また、韓国やトルコなどのニット生産国においても、世界的な消費低迷の影響を受けて設備投資は停滞しました。一方、チャイナプラスワンの動きの中で、カンボジアの売上は増加しました。

欧州では、イタリアの主力ユーザーを中心に国内生産への回帰が進み、販売子会社やデザインセンターによる積極的なユーザーフォローを展開しました。イタリアにおいてはホールゲーム®横編機を核に、比較的堅調に推移しましたが、欧州全体では設備投資は前期に比べ減少しました。

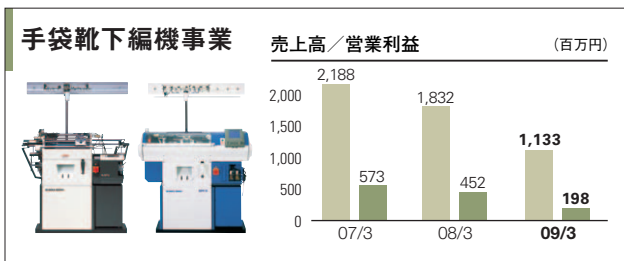
国内市場においても、衣料品消費の二極化が進む一方でニット製品生産が伸びず、設備投資意欲は高まりませんでした。

これらの結果、横編機事業の売上高は415億68百万円(前期比31.2%減)となりました。



デザインシステム関連事業では、国内市場を中心にユーザーニーズに対応したマーケットインの営業展開が奏功し、旧機種の買換え需要と重なったこともあり、布帛(織物)業界向けのコンピュータ制御自動裁断機「P-CAM®」シリーズの売上が伸びました。

しかし、デザインシステムについては、高級機種の「SDS®-ONE APEX」による新たなビジネスモデルを提案しているところですが、「SDS-ONE」全体の売上は、中国を中心とした海外市場で低調でした。これらの結果、デザインシステム関連事業の売上高は15億50百万円(前期比9.6%減)となりました。



手袋靴下編機事業では、東南アジアの新興国で設備投資が振るわず、全般的に低調な推移となった結果、売上高は11億33百万円(前期比38.2%減)となりました。

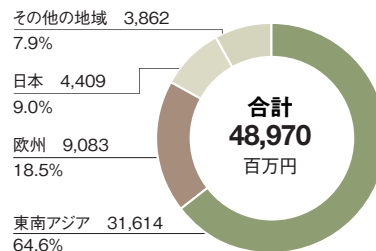
その他事業

部品販売事業など、その他事業の売上高は47億17百万円(前期比20.1%減)となりました。

世界の市場で変化が加速 今後の販売戦略をご説明します

横編機の2大市場である中国と欧州。当社はこれらの地域に販売子会社を設置し、独自の市場分析による販売戦略と、顧客サポートを行っています。

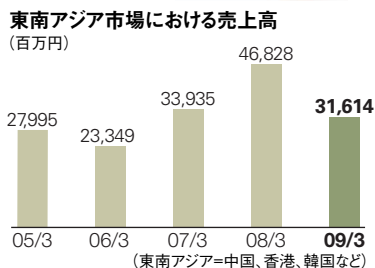
市場別売上高 (百万円)



中国、香港市場で *in China*



島精機有限公司
(SHIMA SEIKI WIN WIN LTD.)
CEO 梅田 郁人



また上海など内需中心のユーザーでは、手動機からコンピュータ横編機への転換需要が高まりました。

所得水準の向上、富裕層の拡大を背景に、消費地市場として存在感を増す中国にあって、ユーザーは、輸出中心から内需の育成へと視野を広げています。2008年7月、上海の展示会で世界に先駆けて披露したホールガーメント®横編機の新機種「MACH2®」に寄せられた熱い期待は、近い将来の高級品市場の成長を予感させます。

満を持してホールガーメント横編機の投入へ。 その体制構築を完了

当期、島精機の100%子会社となった当社は、広東省の東莞にショールームとトレーニングセンターを備えた拠点を設置するなど、サービスの拡充に努めました。また技術習得や人員の強化を図ったことで、ユーザーを支援する十分な体制が構築できたと考えます。

MACH2は香港のユーザーから出荷を始めましたが、速やかな技術支援により販売拡大への手応えは十分です。また、市場の7割以上と推測される手動機からの転換需要には、機能的に他社をリードするSSG®/SIG®シリーズの優位性は変わらず、積極的な拡販に努めていきます。

一時的な低迷があるとはいえ、中国、香港は今後も成長が見込める世界最大の市場です。次期も不透明な要素が多く厳しい局面が続きますが、製品・体制とも準備は整い、全力で売上拡大を目指します。

成長する内需を背景に、 世界最大のファッション消費市場へ

中国、香港では、とりわけ第2四半期から、世界経済悪化によってニット製品の輸出が減速して市場全体が低迷。加えて、金融引締め策や円高などの影響から、当社の業績も前期を大きく下回る結果となりました。

輸出中心であった香港のユーザーは、中国本土へ生産の一部をシフトしてコストダウンを図る一方、内需を意識したモノづくりを進めています。



ホールガーメントセミナー(香港)





SHIMA - ORSI S.p.A.



SHIMA SEIKI SPAIN, S.A.U.



イタリア ファッションショー

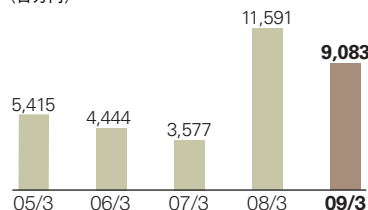
欧州市場で *in Europe*



SHIMA - ORSI S.p.A.

社長 中嶋 利夫

欧州市場における売上高
(百万円)



高級ニット製品の中心地、イタリアは国内回帰の動きで比較的、堅調に推移

イタリアは、高級ニット製品の生産における世界的な中心地であり、製品の3分の2がEU内で販売されています。為替変動の影響が小さく、クイックレスポンス生産の体制構築が進んだことなどから、市場は比較的、堅調に推移しました。

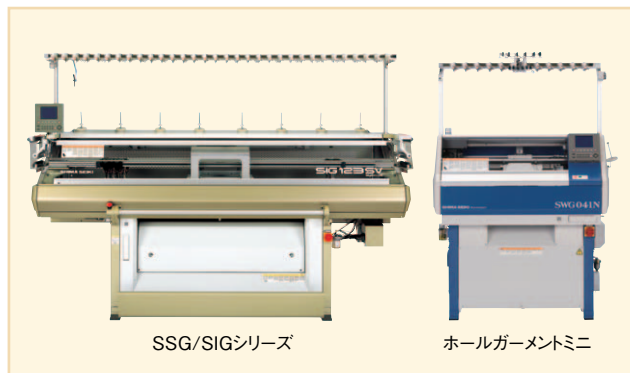
欧州全体では、高級品と量産品の二極化がさらに進みました。高級品はイタリアを中心に欧州内で生産される一方、量産品はアジア、中国からの輸入品に加え、東欧や北アフリカ諸国での生産も増えています。東欧では、イタリアメーカーが生産拠点の整備を進め、設備増強ニーズは堅調に推移しました。

当社は、ホールゲーム横編機の積極的な販売策を推進し、イタリアでは前期に比べ増加。SSG/SIGシリーズも、販売力を強化して設備更新を促した結果、売上高は減少したものの増益となりました。

「MACH2」を中心に積極的な拡大策を推進

新機種「MACH2」の市場展開は次期の最大のポイントとなります。ホールゲーム横編機の先進国であるイタリアでも、生産性だけでなく操作性も、品質とともに高く評価されています。今後は産地での個別展示会を通じ、ユーザーニーズに対応して販売する計画です。連動するデザインシステムの浸透には、当期に結成した特別チームがあたります。またホールゲームミニシリーズをファッション小物生産機として投入することで、ホールゲームの裾野を広げていきます。

当社グループのサービス体制は、スペイン、ポルトガルにも販売会社が設立されたことで、他社と比べ格段に整備され、優位性を保っています。中心国・イタリアでは、高級ニット生産の大幅な落ち込みはないと見込まれることから、当期を上回る業績達成を目標に、戦略的な販売施策を展開します。



SSG/SIGシリーズ

ホールゲームミニ

期待の最新鋭ホールガーメント[®]横編機 MACH2[®]が実現した“超高速化”技術

本格出荷開始!

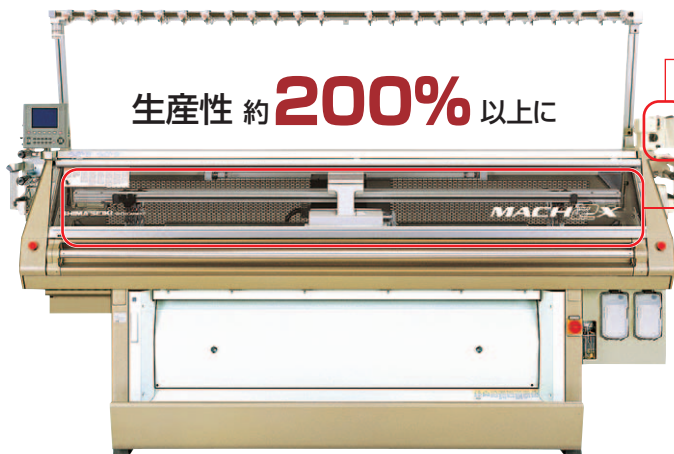
2008年12月、当社が満を持して出荷を開始した「MACH2」。ホールガーメント横編機として初めて「R2キャリッジシステム」を搭載し、キャリッジのすばやい加減速を実現することで、最高編成速度に到達する時間の短縮が可能となりました。1秒あたりの編成速度は従来機の1mから最高1.6mへとアップ、限界とされたスピードの壁を突き破りました。

さらに、さまざまな機能を複合させることで、従来機の2倍から4倍

という驚異的な生産性の向上を実現しました。また糸送りを自動でコントロールする「i-DSCS[®]」を搭載し、多様な糸に対応しながら、これまで以上に美しい無縫製ニットを作れるようになりました。

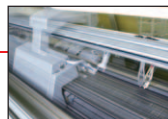
1台で従来機数台分の生産能力を持ち、品質面も飛躍的に向上させた「MACH2」。ホールガーメントの新たな時代を切り開く革新的な新機種として、世界のユーザーから熱い視線が寄せられています。

MACH2 超高速化の2つの技術ポイント



POINT1 i-DSCS

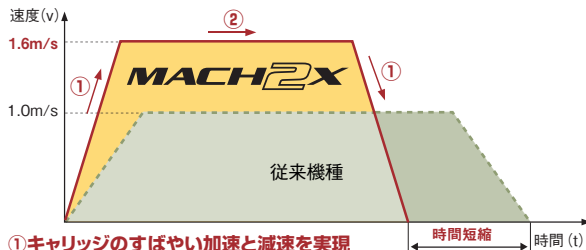
ホールガーメントの品質を高めるために不可欠な当社独自の機構で、必要な糸送りをモーター制御することにより生産性の向上にも貢献しました。



POINT2 R2 CARRIAGE[®] (キャリッジ)

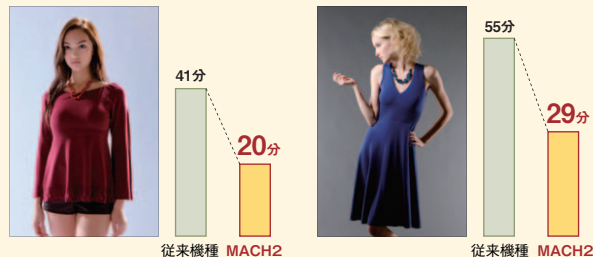
生産効率アップの中核となるシステム。キャリッジの加速・減速性能のアップと最高速度のアップ、2つの効果で編成時間を大幅に短縮しました。

さまざまな技術革新により、MACH2は高品質、高生産性を両立させ、消費者、生産者、いずれの満足度もさらに高めることが可能となりました。



- ① キャリッジのすばやい加速と減速を実現
- ② キャリッジの最高速度 1.6m/s を達成

従来機種とMACH2の編成時間の比較



ニット業界の常識と歴史を塗り替えた 「ホールガーメント®横編機」の誕生



「セーターは別々に編んだパーツを縫い合わせて作るもの」という常識を覆し、
“東洋のマジック”と称賛された「ホールガーメント横編機」の誕生ストーリー（前編）

1995年10月、ファッションの中心地、イタリア・ミラノでは、4年に1度の繊維機械の見本市、ITMA展が開催されていました。

世界最大のこの見本市で、当社ブースは異例とも言える数の来場者で混雑しました。注目の的は、初めて披露した「ホールガーメント横編機」でした。糸をセットしてスタートさせるだけで、縫い目がないニット衣類が一着丸ごと編み上がる。この編機を目にした来場者は感嘆と称賛の声を上げ、特に欧州のアパレルメーカーからは、「産業革命に匹敵する大発明」と絶賛されることとなります。この新しい横編機には、労働集約型の典型であったニット業界のモノづくりを根本的に変えるインパクトがあったからです。

通常のニット衣類は、身ごろや袖をパーツごとに編み、人が縫い合わせて作られます。縫製工程に多くの労働力が必要なことから、世界のニット産業は人件費が安い国や地域への移動を繰り返し、日本や欧州のニット産地は衰退の途をたどっていきました。しかし、人手が不要で、付加価値が高いモノづくりができるようになり、生産がクイックレスポンスに実現できれば、消費地におけるニットのモノづくりの可能性が広がります。

そのためには、さらなる技術革新が必要でした。1995年の開発時点では、ファッション性が高いモノづくりはまだ難しく、「スルメイカのようにだ」とも言われた平面的な状態だったからです。実は当初、4年後のITMA展での発表を予定していたものの、急速に進むニット産地の空洞化を目の当たりにして前倒しで発表したのです。

ITMA展終了後すぐ、人の体にフィットした着心地の良いニットが編める新機種の開発が進められました。2年後、150年間も変わることがなかった編み針の機構を劇的に革新した「スライドニードル®」の開発によって、編成のバリエーションは36通りから144通りに飛躍的に拡大、困難な課題は克服され、それは“東洋のマジック”とよばれました。

世界を独走する「ホールガーメント横編機」は、長きにわたるニット業界の常識を塗り替えて誕生し、現在も新たな歴史を刻みながら進化し続けています。

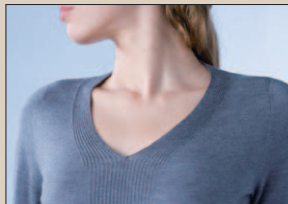
※次回はホールガーメント横編機が誕生した後のストーリー（後編）を予定しています。

ホールガーメントの特長



肩

立体的に編成することで、肩のラインが背中に沿い、自然な着心地が得られます。



ネックライン

編み込まれたネックラインや襟元は、上品で洗練された仕上げです。



身ごろ

前身ごろと後身ごろをつなぐ縫い目がなく、ニット全体に一体感をもたらします。縫いしろが無くなることで、セーター1枚につきA4シート約1枚分のロスが削減できます。



脇

脇には縫い目がなく、従来のニットウェアのごわつき感が解消されます。

2009年3月期の取り組み

第48期

2008年

- 4月 1日 **組織** 東洋紡糸工業(株)を設立【大阪】、太田営業所開設【群馬】
 23日 **展示会** ジャパン・クリエーション2009 Spring/Summerに出展【東京】
- 5月 1日 **出荷** コンピュータ横編機、1978年以来、出荷10万台を達成 **①**
 28日 **CSR** 中国四川大地震災害に対し、義援金を拠出
- 6月 27日 **組織** 第47回定時株主総会を開催
- 7月 27日 **展示会** ITMA ASIA + CITME 2008に出展【上海】 **②**
 27日 **組織** 上海にトレーニングセンターを開設
 31日 **ファイナンス** 自己株式取得枠設定(150万株)を取締役会で決議
- 8月 13日 **ファイナンス** 自己株式100万株を消却
- 9月 5日 **ファイナンス** 自己株式取得枠設定(50万株)を取締役会で決議
 8日 **展示会** 第12回上海国際流行紗線展示会(スピンエキスポ)に出展
 10日 **展示会** ホールガーメント®個展BIANCOを開催【ニューヨーク】 **③**
- 10月 2日 **展示会** 香港でホールガーメントセミナーを開催 **①**
 15日 **展示会** ジャパン・クリエーション2009 Autumn/Winterに出展【東京】 **②**
 30日 **組織** 島精染染有限公司(SHIMA SEIKI WIN WIN LTD.)を100%子会社化【香港】
- 11月 25日 **組織** SHIMA SEIKI SPAIN, S.A.U.、SHIMA SEIKI PORTUGAL LDA.を設立 **④**
- 12月 1日 **出荷** MACH2®Sを初出荷



①



②



③



④ SHIMA SEIKI SPAIN, S.A.U.

2009年

- 1月 5日 **出荷** MACH2Xを初出荷
 30日 **発表** 業績予想の修正及び配当予想の修正、並びに役員報酬の減額に関するお知らせを発表
- 3月 1日 **組織** 開発本部、生産本部、営業本部を新設
 12日 **展示会** ジャパン・ベストニット・セレクション2009に協賛・出展【東京】 **⑤**
 28日 **展示会** 東京ミッドタウンでWHOLEGARMENT® TOKYO 2009を開催 **②**

第49期

- 4月 4日 **組織** フュージョンミュージアム ニットxトイをオープン【和歌山】
 6月 12日 **展示会** 第14回上海国際紡織工業展(上海テックス)に出展



⑤

1

「ジャパン・クリエーション2009 Autumn/Winter」に出展

—— ホールガーメント®横編機の新機種が、衝撃的な日本デビューを飾りました

日本ならではの匠の技や感性に満ちた繊維関連製品が一堂に集まる「ジャパン・クリエーション」。来秋冬シーズンに向けた展示会が、2008年10月、東京ビッグサイトで開催されました。

当社ブースでは、日本初披露となるホールガーメント横編機の新機種が予想以上の関心を集め、例年にも増して大勢の来場者を迎えました。新機種「MACH2®」は、従来機の2倍から4倍という生産効率の向上を実現し、チュニックやワンピースでも1枚わずか20分程で編むことができます。売れ筋に応じたタイムリーな生産が可能となり、有力ニットメーカーから熱い眼差しが寄せられました。また、当社子会社である東洋紡糸工業と共同開発した、ホールガーメント用の高級カシミア糸のサンプルも注目されました。

一方、3次元のバーチャルサンプルが作成できるデザインシステム「SDS®-ONE APEX」も、デモンストレーション時には見学者の輪が

大きく広がるなど強い関心を集めました。

当社が展示した新製品群は生産時間やコストを大幅に削減できるため、高品質でリーズナブルな価格のニット製品を消費者に提供することが可能となります。厳しい業界環境を乗り切るための製品提案には強い手応えがあり、今後の拡販が期待されます。



東京ビッグサイトで10月15日～17日開催。総入場者は3万2千人超。

2

東京で本格的なファッションショー「WHOLEGARMENT® TOKYO 2009」を開催

—— 新人デザイナーの発掘も視野に、無縫製ニットウェアの美と技術を発信

当社は2009年3月28日、東京ミッドタウンで「WHOLEGARMENT TOKYO 2009」を開催しました。第8回「東京発 日本ファッション・ウィーク」のスペシャルイベントとして、当社が初めて東京で開催したファッションショーです。

このショーはホールガーメントとのコラボレーションを通じて新人デザイナーの発掘・人材育成も兼ねており、まず3組の新人デザイナーの作品が披露されました。そして、イタリア人デザイナー・パラテラ氏の作品、当社オリジナル作品からなる3部で構成。デザイナーの感性によって引き出されたホールガーメントの魅力を、華やかにアピールしました。

アパレルやニットメーカー、デザイナーをはじめ、経済産業省や学校関係者なども含めた約600人の招待者からは、「素晴らしいショーで意欲がわいた」「早くサンプルを手にとって見たい」といった高い評価

の声をいただきました。

今後も当社は、ニットデザインの可能性を広げながら、新しい感性を発揮するデザイナーの発掘や育成にも取り組むことで、ニット業界発展のために貢献していきます。



新人デザイナー作品
テーマ「進化」



パラテラ氏作品
テーマ「BIANCO(白)」



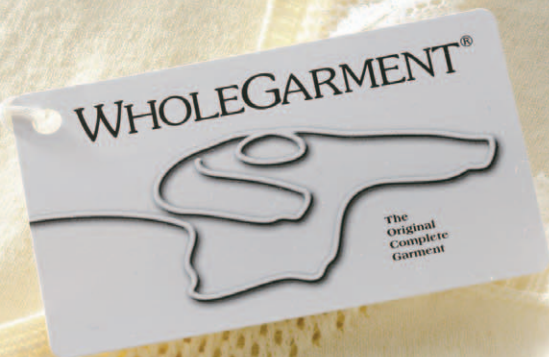
当社オリジナル作品
テーマ「限りなき前進」

株主優待のご紹介

当社は、毎年3月末日と9月末日を基準日として、単元株主様に株主優待を実施しています。

3月期のご優待では毎期趣向を凝らし、当社事業への理解をより深めていただきたいとの思いから、横編機で編み立てられたオリジナルのホールガーメント®(無縫製ニット)製品や、地元和歌山にまつわる品物などを特別企画品としてお届けしてきました。

当社は今後も、株主の皆様にお喜びいただけるご優待を実施したいと考えております。



2009年3月期のご優待といたしましては、昨年に引き続き、ホールガーメント製品などのお届けを予定しています。

なお、ご優待品のお届けは、生産の都合により、秋以降を予定しています。何とぞ、ご了承賜りますようお願い申し上げます。

※内容の詳細につきましては、改めてご案内させていただきます。

これまでの3月期の株主優待品例

※ご所有の株数によりお届けしました品物は異なっております。

2008

ニット製品



紀州・南高梅のこだわりセット



2007

ニット製品



イタリアワインセット



2006

ニット製品



黒あわび茸詰め合わせ



「手渡し鮭」詰め合わせ



2005

ニット製品



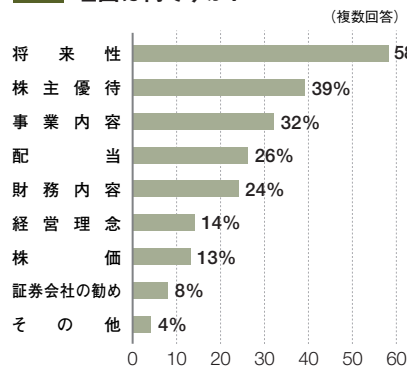
アンケート結果のご報告

当社では、株主の皆様の声をお聞かせいただくため、定期的に株主アンケートを実施しています。昨年12月発行の第48期中間期「株主のみなさまへ」に同封しましたアンケートにおいては、約3,000名という多数の株主様からご回答いただき、回答率は前回を上回る

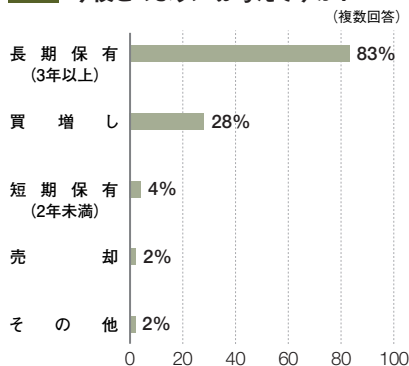
16.6%でした。ご協力ありがとうございました。

頂戴したさまざまなご意見を真摯に受け止め、今後もIR活動の充実に尽力してまいりますので、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

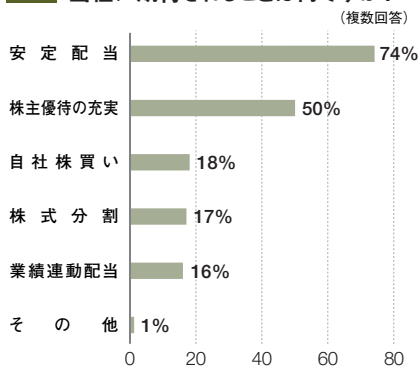
1 当社の株式を購入された理由は何ですか？



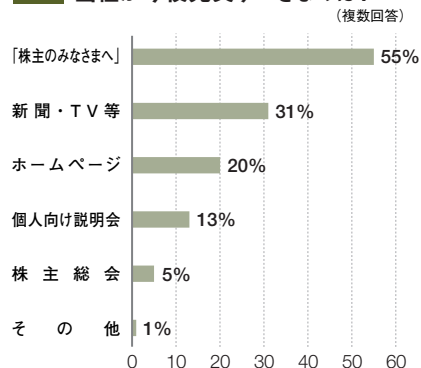
2 当社の株式について今後どのようにお考えですか？



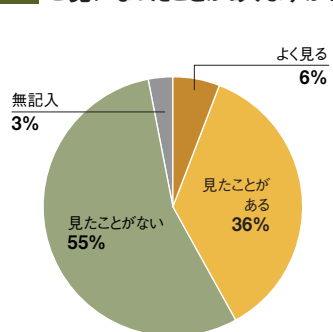
3 株主還元に関して当社に期待されることは何ですか？



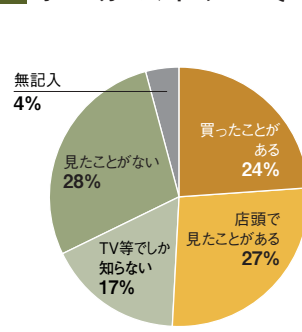
4 会社情報を提供する手段として当社が今後充実すべきなのは？



5 ホームページのIR情報をご覧になったことがありますか？



6 当社の編機で作られるホールガーメント®について



連結財務諸表(要約)

連結貸借対照表

(単位:百万円)

科 目	当期	前期
	2009年3月31日現在	2008年3月31日現在
流動資産	74,269	86,918
現金及び預金	18,695	23,068
受取手形及び売掛金	35,667	41,204
その他	22,741	24,870
貸倒引当金	△ 2,835	△ 2,226
固定資産	45,508	46,827
有形固定資産	22,735	22,859
土地	10,917	10,491
その他	11,817	12,368
無形固定資産	9,267	9,210
のれん	9,120	9,066
その他	146	144
投資その他の資産	13,506	14,757
投資有価証券	6,358	7,513
その他	9,273	9,460
貸倒引当金	△ 2,125	△ 2,216
1 資産合計	119,777	133,745

POINT 1 資産合計

現金及び預金の減少、受取手形及び売掛金の減少等により、前期に比べて139億67百万円減少しました。

POINT 2 負債合計

支払手形及び買掛金の減少等により、前期に比べ33億84百万円減少しました。

POINT 3 純資産合計

自己株式の消却等による利益剰余金の減少、島精榮業有限公司の100%子会社化による少数株主持分の減少等により、前期に比べ105億83百万円減少しました。

科 目	当期	前期
	2009年3月31日現在	2008年3月31日現在
流動負債	21,364	23,367
支払手形及び買掛金	5,210	9,773
その他	16,153	13,593
固定負債	7,350	8,731
新株予約権付社債	2,805	2,909
その他	4,544	5,821
2 負債合計	28,714	32,098
株主資本	101,700	106,857
資本金	14,859	14,859
資本剰余金	21,724	22,396
利益剰余金	71,511	74,924
自己株式	△ 6,394	△ 5,322
評価・換算差額等	△ 10,636	△ 9,003
その他有価証券評価差額金	△ 1,210	△ 572
土地再評価差額金	△ 7,433	△ 7,392
為替換算調整勘定	△ 1,992	△ 1,038
少数株主持分	—	3,792
3 純資産合計	91,063	101,647
負債純資産合計	119,777	133,745

POINT 4 売上高

中国、香港市場における設備投資の冷え込み等の結果、売上高は減少しました。

POINT 5 営業利益

売上高の減少、生産台数の減少に伴う売上総利益率の低下等により、営業利益は85億28百万円となりました。

POINT 6 経常利益

急激な円高による大幅な為替差損の発生等により、経常利益は48億14百万円となりました。

連結損益計算書

(単位:百万円)

科 目	当期	前期
	2008年4月1日から 2009年3月31日まで	2007年4月1日から 2008年3月31日まで
4 売上高	48,970	69,897
売上原価	24,318	34,131
売上総利益	24,651	35,766
販売費及び一般管理費	16,123	19,552
5 営業利益	8,528	16,213
営業外収益	1,007	3,166
営業外費用	4,721	294
6 経常利益	4,814	19,085
特別利益	344	—
特別損失	1,101	918
税金等調整前当期純利益	4,057	18,167
法人税・住民税及び事業税	371	8,488
法人税等調整額	1,232	△ 1,151
少数株主利益	687	871
7 当期純利益	1,765	9,958

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科 目	当期	前期
	2008年4月1日から 2009年3月31日まで	2007年4月1日から 2008年3月31日まで
8 営業活動による キャッシュ・フロー	1,977	21,747
9 投資活動による キャッシュ・フロー	70	△ 3,321
10 財務活動による キャッシュ・フロー	△ 4,294	△ 10,883
現金及び現金同等物に 係る換算差額	△ 1,086	△ 853
現金及び現金同等物の 増減額	△ 3,333	6,689
現金及び現金同等物の 期首残高	22,643	15,954
現金及び現金同等物の 期末残高	19,310	22,643

連結株主資本等変動計算書

(単位:百万円)

	株主資本					評価・換算差額等				少数株主 持分	純資産 合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他 有価証券 評価差額金	土地再評価 差額金	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計		
2008年3月31日残高	14,859	22,396	74,924	△ 5,322	106,857	△ 572	△ 7,392	△ 1,038	△ 9,003	3,792	101,647
連結会計年度中の変動額											
剰余金の配当			△ 1,970		△ 1,970						△ 1,970
当期純利益			1,765		1,765						1,765
自己株式の取得				△ 5,096	△ 5,096						△ 5,096
自己株式の処分		△ 66	△ 0	170	102						102
自己株式の消却		△ 606	△ 3,247	3,854	—						—
土地再評価差額金の取崩			40		40						40
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額(純額)						△ 638	△ 40	△ 954	△ 1,633	△ 3,792	△ 5,426
連結会計年度中の変動額合計	—	△ 672	△ 3,412	△ 1,071	△ 5,157	△ 638	△ 40	△ 954	△ 1,633	△ 3,792	△ 10,583
2009年3月31日残高	14,859	21,724	71,511	△ 6,394	101,700	△ 1,210	△ 7,433	△ 1,992	△ 10,636	—	91,063

POINT 7 当期純利益

投資有価証券評価損等の特別損失を計上したことにより、当期純利益は17億65百万円となりました。

POINT 8 営業活動によるキャッシュ・フロー

法人税等の支払い等の資金支出はありましたが、売上債権の減少等の資金増加により、19億77百万円の資金の増加となりました。

POINT 9 投資活動によるキャッシュ・フロー

有形固定資産の取得等に資金を支出しましたが、有価証券の売却等の資金増加により、70百万円の資金の増加となりました。

POINT 10 財務活動によるキャッシュ・フロー

自己株式の取得や少数株主からの株式の取得等の資金支出により、42億94百万円の資金の減少となりました。

注) 詳細につきましては、当社ホームページをご覧ください。

会社概要

■ 会社概要 (2009年3月31日現在)

商号 株式会社島精機製作所
(英文表記) SHIMA SEIKI MFG., LTD.
本社 和歌山県和歌山市坂田85番地
創立 1962年2月4日
資本金 148億5,980万円
従業員数 1,125名(連結1,708名)
事業内容 コンピュータ横編機
コンピュータデザインシステム
アパレルCAD/CAMシステム
手袋編機、靴下編機

■ 事業所 (2009年6月26日現在)

支店 東京支店 (東京都中央区)
大阪支店 (大阪市北区)
名古屋支店 (名古屋市中区)
泉州支店 (大阪府泉大津市)

営業所 山形営業所 (山形県山形市)
福島営業所 (福島県伊達市)
新潟営業所 (新潟県五泉市)
太田営業所 (群馬県太田市)
甲府営業所 (山梨県中巨摩郡昭和町)
四国営業所 (香川県東かがわ市)

海外支店 台北支店 (台北市)

工場 本社工場 (和歌山県和歌山市)

■ 役員 (2009年6月26日現在)

地位	氏名	担当または主な職業
代表取締役社長	島 正博	営業本部長
専務取締役	田中 雅夫	総務部、内部監査室、経理部担当
常務取締役	岩倉 煌一	企画部、物流部担当兼経営管理部長
常務取締役	島 三博	トータルデザインセンター担当兼生産本部長
取締役	京谷 実	システム生産技術部担当兼生産技術部長
取締役	森田 敏明	資材部長
取締役	和田 隆	製造技術部長
取締役	梅田 郁人	島精榮有限公司CEO
取締役	藤田 紀	総務部長
取締役	有北 礼治	開発本部長
常勤監査役	沖殿 俊幸	
常勤監査役	片桐 正二郎	
監査役	的場 悠紀	弁護士
監査役	八杉 昌利	税理士

(注) 監査役 的場悠紀、八杉昌利の両氏は、社外監査役であります。

■ 連結子会社 (2009年3月31日現在)

株式会社シマファインプレス (和歌山県和歌山市)
株式会社ニットマック (和歌山県和歌山市)
ティーエスエム工業株式会社 (和歌山県和歌山市)
株式会社海南精密 (和歌山県海南市)
東洋紡糸工業株式会社 (大阪府泉北郡忠岡町)
株式会社ツカダシマセイキ (群馬県太田市)
株式会社マーキーズ (和歌山県和歌山市)
SHIMA SEIKI EUROPE LTD. (イギリス)
SHIMA SEIKI U.S.A. INC. (アメリカ)
島精榮有限公司 (中国・香港)
(SHIMA SEIKI WIN WIN LTD.)
NOVA KNITS INC. (アメリカ)
SHIMA - ORSI S.p.A. (イタリア)
島精榮(上海)貿易有限公司 (中国)
(SHIMA SEIKI WINWIN SHANGHAI LTD.)
SHIMA SEIKI SPAIN, S.A.U. (スペイン)

株式概要

株式の状況 (2009年3月31日現在)

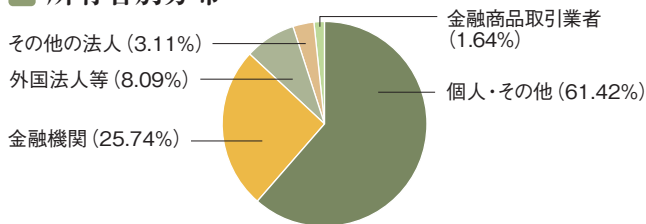
- ① 発行可能株式総数…………… 142,000,000株
- ② 発行済株式の総数…………… 36,600,000株
- ③ 当期末株主数…………… 18,234名
- ④ 大株主

(千株未満切捨て)

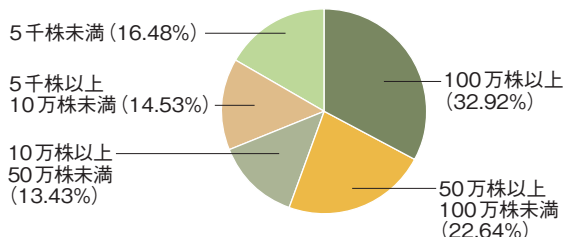
株主名	持株数(千株)	出資比率(%)
島 正 博	3,670	10.61
島 三 博	1,825	5.28
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	1,813	5.25
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口4G)	1,409	4.08
株式会社紀陽銀行	1,310	3.79
株式会社三菱東京UFJ銀行	880	2.54
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社(信託口)	871	2.52
和島興産株式会社	850	2.46
シマセイキ社員持株会	829	2.40
株式会社泉州銀行	700	2.02

(注) 当社は、自己株式2,021千株を保有しておりますが、上記大株主から除外しております。
出資比率は、自己株式を控除して算出しております。

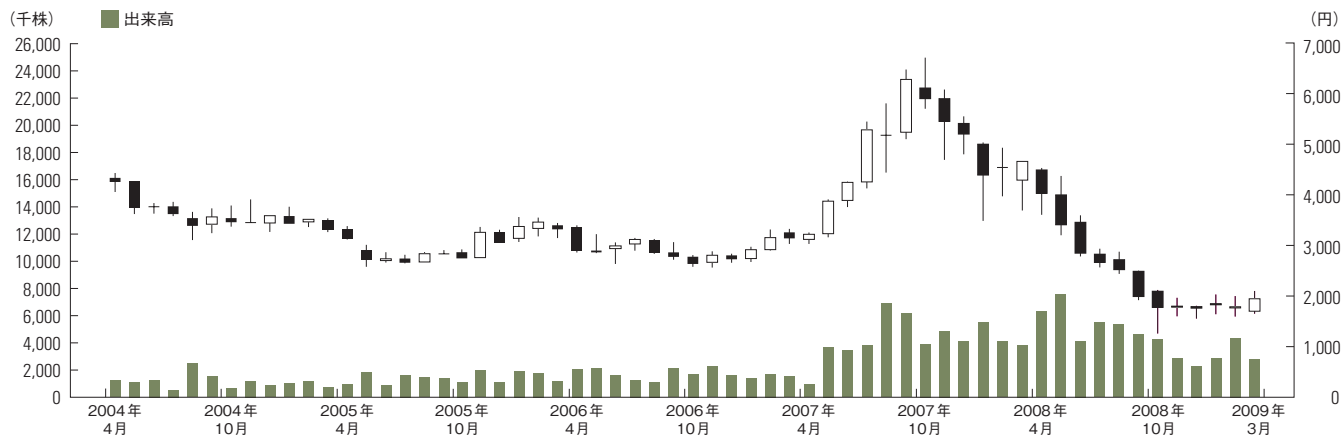
所有者別分布



所有数別分布



株価と出来高の推移 (過去5年間)



株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで		
定時株主総会	基準日	3月31日	
	開催日	毎年6月	
配当金受領株主確定日	期末配当金	3月31日	
	中間配当金	9月30日	
公告方法	電子公告		
	下記当社ホームページに掲載		
	(http://www.shimaseiki.co.jp/irj/irj.html)		
ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載			
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社		
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒530-0004 大阪市北区堂島浜一丁目1番5号 TEL 0120-094-777 (通話料無料)		

(ご注意)

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっておりますので、口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国本支店にてもお取り扱いいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。



株式会社島精機製作所

〒641-8511 和歌山市坂田85番地

TEL (073) 471-0511 (代表)

<http://www.shimaseiki.co.jp/>

DSCS、MACH2、P-CAM、R2CARRIAGE、SDS、SIG、SSG、SWG、WHOLEGARMENT、スライドニードルおよびホールガーメントは株式会社島精機製作所の登録商標です。

『フュージョンミュージアム ニット×トイ』 オープンのお知らせ

このたび当社は、ニットとおもちゃが融合（フュージョン）した世界で初めてのミュージアム施設『Fusion Museum KNIT×TOYS』をオープンいたしました。

このミュージアムでは、ニット発展の歴史をたどりながら最新鋭のニット機器やデモンストレーションをご覧ください。ことに加え、世界的なおもちゃコレクターである北原照久氏のコレクションの展示を見ていただくことができます。

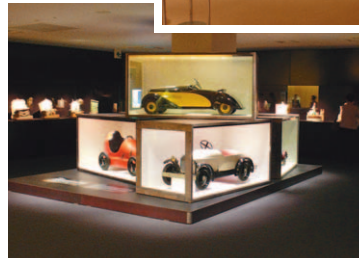
和歌山にお越しの際は、ぜひお立ち寄りください。

所在地：フォルテ ワジマ3階（和歌山市本町2丁目1番地）

開館時間：午前10時～午後7時（休館日1月1日～3日）

入場料：大人300円、小中高生100円

※ミュージアムの詳細は次号でレポートする予定です。



この報告書は環境にやさしい大豆油インキと再生紙を使用しています。